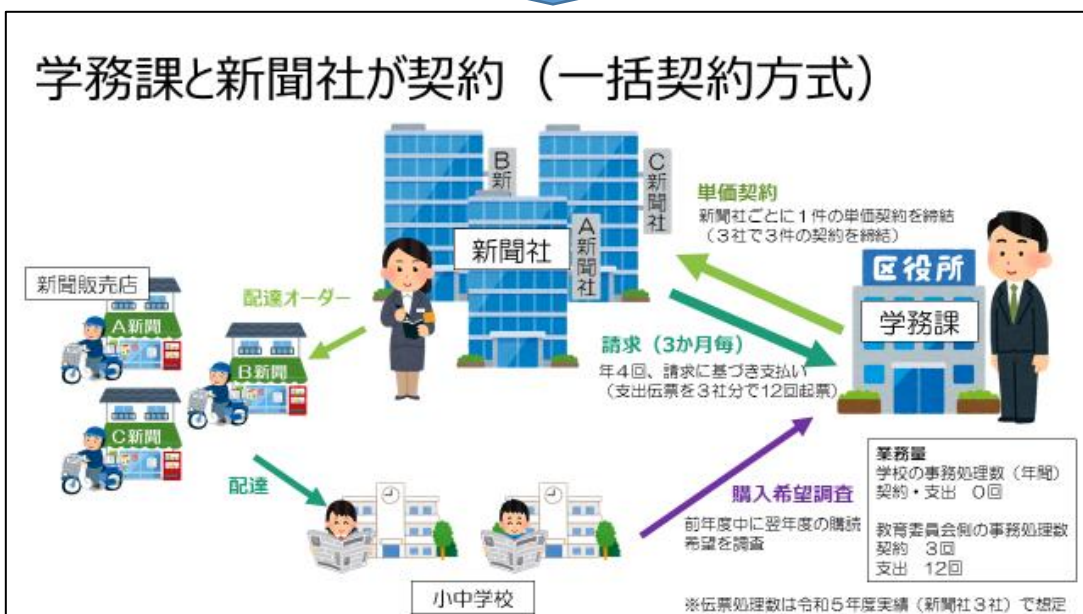
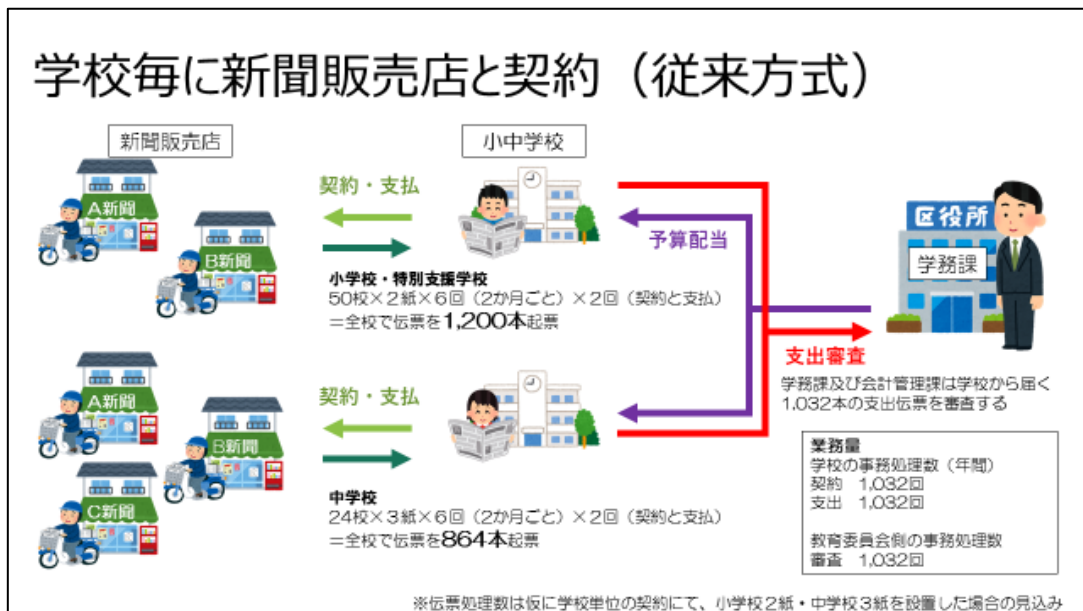


## 実践事例「葛飾方式」による新聞一括契約と新聞活用に向けた取組 (葛飾区教育委員会)

葛飾区では、令和5年度からすべての区立小・中学校において、文部科学省の第6次「学校図書館図書整備費等5カ年計画」をもとに、新聞が小学校2紙、中学校3紙、配備される環境を整えました。

### 「葛飾方式」の導入経緯と効果

- これまでも各学校に新聞購読費を予算配備してまいりましたが、学校ごとに新聞販売店と契約・支払いを行う煩雑さが、学校事務の負担となっていました。
- そこで、区教育委員会が新聞社と一括契約・支払いをする方式（葛飾方式）を考案し、実施することになりました。「葛飾方式」を採用することにより、各学校で契約した場合に作成する年間1000件以上の伝票が不要となり、学校事務の負担が減るとともに、新聞配備を実現することができました。



## 学校司書を対象とした新聞活用に向けた取組

- 葛飾区では、学習センター（学校図書館）を活用した授業やその他の教育活動を充実させるために、平成16年度から、区立小・中学校に学校司書を配置し、平成31年度からは週5日間、6時間の勤務体制となっています。
- 令和5年度は、年間6回開催している学校司書を対象とした研修において、「学習センター（学校図書館）の活用を推進するための事例の共有と実践～新聞活用と学習支援の充実を目指して～」を年間の研修テーマとして、これまで以上に新聞を学習に活用する意識を高めることを目指しています。
- 4月の研修では、新聞活用方法についての理解を深めることを目的に、新聞社による「出前授業」を実施しました。11月には、小・中学校7名の学校司書が、各学校における新聞活用実践例について報告を行い、自校の業務改善に活かすことができるようにしました。報告後は、グループワークを通して、各学校の取組や課題について情報交換を行いました。



4月 学校司書研修  
(新聞出前授業の様子)

## その他の取組

- 年間を通じた取組として、学校司書による新聞スクラップを行っています。各学校にSDGsの17の目標を割り当て、自校のテーマに関する記事のスクラップ・保存を行い、見出しデータを区内の学校司書で共有できる仕組みを作ることで、SDGsに関する調べ学習において、児童・生徒・教員に効率的に新聞記事を提供できるようにしています。
- 他にも、新聞を有効活用できるように、『新聞で授業が変わるNIEガイドブック』（一般社団法人 日本新聞協会 発行）を全小・中学校に配付しています。
- 各学校では、複数の新聞を学習センター（学校図書館）や玄関など、児童・生徒の目の届きやすい場所に置くことや、学校司書が一面の記事を紹介するなど、日常的に新聞にふれる機会を増やしています。来年度は、新聞活用の意識をより一層高めるために、司書教諭に対する新聞活用研修を実施する予定です。
- 今後も、各種の研修を通して、学校における新聞活用の取組を、葛飾区全体に広げていきたいと考えています。



学校司書による新聞記事紹介

## 取組の成果

- すべての区立小・中学校の学習センター（学校図書館）で新聞が複数紙配備される環境を整備
- 各学校及び区教育委員会の新聞契約に係る事務負担を軽減
- 全校に新聞配備されたことで、区立小・中学校で新聞を活用した取組を実施

## 今後の展望

- 学校により学習センター（学校図書館）の施設や設備等が異なるため、新聞を配置するスペースについて工夫していく。
- 学校司書と学習センター（学校図書館）担当教諭が連携し、新聞活用に対する教職員の意識を高め、授業において新聞を活用する取組をさらに推進していく。